THE ENVIRONMENT & AGRICULTURE NEWS

環境農業新聞

メール：ecoagri-na@sweet.ocn.ne.jp

2020年（令和２年）
６月15日（月）
第220号

毎月15日発行
平成13年4月17日
第三種郵便物認可

発行所　環境農業新聞社
編集発行人　成瀬一夫
東京都葛飾区東金町1-41-9
〒125-0041　フランス堂ビル３階
電話　03-3826-5212
FAX　03-3826-5217
年間購読料　3,000円（税・送料込）
郵便振替口座　00150-2-290578

主な記事

○…農と食のシンポジウム……（1面）
○…冷却式過熱水蒸気……（2面）
○…初のネット配信シンポジウム…（4－5面）
○…プレシンポジウム……（8面）

有事・災害時に最も大事な農と食のシンポジウム

土の土壌菌と人間の腸内細菌は同じ

脳機能を改善する豊受御古菌

日本豊受自然農・由井寅子代表

東京会場もいっぱいに。ネットで自宅配信されたシンポジウム

スポーツドリンク「海幸彦」を開発

痛みの改善酪酸が必要「菌は菌で愛する」スプレーも

由井大会長

日本豊受自然農主催の「第9回日本の食と農業を考えるシンポジウム」はコロナウイルスの影響で会場を京都から東京に変更して7日午前10時から東京・世田谷のCHhom東京校において「有事・災害時に最も大事な農と食のシンポジウム」として「土と腸は大事！」～土の土壌菌と人間の腸内細菌は同じだった！～をテーマに開催された。この模様を札幌校、名古屋校、全国、世界に自宅配信され、2日間のべ3000名以上の参加となった。前日のプレイベントも中身の濃いものとなり多くの人から「大変貴重な話が聞くことができた」と絶賛する声が相次いだ。会場では、主催者・協賛各団体がシンポジウムに合わせブース出展し、豊受自然農の野菜や加工食品、化粧品や書籍などの販売、事例・症例展示、健康関連の体験コーナーなどを設け、来場者で賑わっていた。関連記事4～5面、7面、8面に。

同シンポジウムで由井寅子大会長（日本豊受自然農㈱代表、百姓、日本ホメオパシー医学協会名誉会長）は「土と腸は大事！」～土の土壌菌と人間の腸内細菌は同じだった！と題して基調講演を行った。

大評判の豊菌グルト

由井氏は最初に植物の根は人間で言うと腸であり、根には土壌菌があり、腸には腸内細菌があると話しながら大腸、小腸の働きを述べた。大腸は脳と密接に関わっており、小腸は独立国。大腸は多くの神経細胞があり、交感神経系や副交感神経系を介して脳とつながっていると自らの体験を交えて説明した。

大腸、小腸を支配

由井氏は「腸内細菌の方が大腸、小腸を支配しているのかなと思うようになりました」と語る。

そして国内において農業等で使われている除草剤であるグリホサートについて次のように語った。

グリホサートは鉄、コバルト、マンガンなどミネラルをキレート化し、作物自体にミネラル不足、腸内細菌にダメージを与え、体内のセロトニン、ドーパミン、メラトニン、GABA、葉酸の不足をもたらす。うつ病、躁うつ病に深く関わっている。

心の不調、これは腸内細菌を整えていけば改善します。中和することが重要。土壌中のマイコバクテリウムなどはセロトニンの排出を誘発し、気分や脳機能を改善するとも語り、そこで開発した豊受御古菌はセロトニン、GABA、酪酸、Bhodococcus、ミトコンドリアを活性化させる菌で、抗アレルギー菌などをふんだんに含んでいるものなのですと説明した。

餅つきを子供に教える由井代表

痛みがあることは苦痛そのものだが、由井氏は痛みを改善するのに酪酸が必要であることを強調。「腸をよくするのにもっとも大事なのが酪酸。神経は腸で作られていることを確信した。あきらかに痛みがなくなるんです」と。

海藻を食べること

さらに由井氏は「大腸には免疫力があるということは多くの人が知っている。口から食べ物だけでなく、多くの菌が入ります。それを識別するものが腸にあるんです」と言いながら、その原理を詳しく述べ、海藻を食べることの重要性も説いた。

由井氏は「腸を綺麗にして子供を産んで欲しい」と語り、「発酵のものを摂って欲しい」とし、御古菌、豊菌グルトについて説明した。

次に腸内細菌を壊すものは抗生物質、グリホサート、ワクチンなどの重金属、食品添加物、ストレスをあげ、それぞれについて詳しく説明した。

まず抗生物質。家畜の餌に使っており、その糞尿を作物の堆肥に使う。農林水産省の報告で、人に使用される抗生物質は約520トン、動物関連の総使用量は約1290トン。畜産の糞尿を堆肥として作った有機などの野菜を食べると体に入ってきます。

悪玉菌が繁殖する

抗生物質であるグリホサートにより善玉菌が死んで悪玉菌が繁殖する。その結果、潰瘍性大腸炎、クローニン病、セリアック病、リーキーガットといった腸の問題が生じる。

グリホサートはラウンドアップの主成分でもあり、土壌菌がダメージを受け、農作物にミネラル不足を起こす可能性がある。糖尿病患者など急増との関係を指摘する学者もいる。グリホサートは髪の毛からも検出され、皆の中に密かに入っている。ワクチンの多くからもグリホサートが検出。腸内細菌にダメージを与えているという。

そこでグリホサートの害に対処するレメディーを説明した。

バージニア大学の研究者が発表した自閉症のリスクというのは母親の腸内細菌の健康状態によって決定される研究を紹介した。

引き続き食品添加物。腸内細菌叢を変化させ、慢性的な炎症を誘発し、代謝異常を引き起こす乳化剤のリスクを指摘。

腸内細菌を破壊する

清涼飲料水や菓子類に入っている人工甘味料で使用が増えているスクラロースについて、オーストラリアのアデレード大学医学部が発表した「低カロリー甘味料が腸内細菌を破壊する」という論文を紹介した。

私どもは皆さんに安全性を警告するだけでなくよいものを提供しなければということで「海幸彦」というスポーツドリンクを作りました。この中に、海洋深層水、カレンデュラ3年発酵素、キネシア1年発酵素、函南町の井戸水、みかん100％っしぼり汁、カモミラ蒸留水、レメディーAquamalina（海水）、Sol（太陽光）、Sーグルタチ、Uーsotlt12種類が入っているという。

ルネカントンという生理学者が愛犬の血液を海水と入れ替えて実験し、より健康になった事例を紹介し、海水の成分と体液に必要なミネラルとの類似性にも触れた。

練り食品に使われるトランスグルタミナーゼが、セリアック病を誘発しているリスクを指摘する論文も紹介した。

保存料として使われるソルビン酸カリウムは、腸内細菌の組織と機能を変化させ、免疫系に影響をおよぼす可能性を指摘。

亜硫酸による腸内善玉菌の大幅な減少を指摘した。

また、生命の土台である菌達を嫌がり消毒・殺菌という解決策でなく、菌に感謝し、良い菌で満たす発想から「菌を菌を愛する」というスプレーを作りました。土壌菌のドリンク、目や鼻などが守られ、命、生活が守られている。御古菌をおんときんと言ってください。

農地は聖地なんです。土を傷めない農業をすることが大事。だから自然農なんです。また、太陽光とビタミンDが免疫や感染防止の要の栄養と指摘した。

御古菌には元に戻す働きがある。生まれる前の目的を知っていた時の状態に戻す働きがある。本来の目的を思い出させる。御古菌さんには神なる力がある。御古菌さんを飲むことで神人合一となると語る。是非、飲んでみてください。心が穏やかになった人が多かった。

この後、体験事例を発表した31歳の女性の相談会の模様を映像で紹介。

その変わり具合に驚きの声もあがるほどだった。

由井氏は最後に「土壌菌、腸内細菌を殺そうとすることは信仰心のなさの表れではないでしょうか。私たちは土壌菌に生かされていた。私たちは腸内細菌に生かされていたんですよ」と締めくくった。